

CLUB NEWS

vol.
1235

2020-2021
MEETING

2020-2021年度国際ロータリーテーマ
ロータリーは機会の扉を開く

国際ロータリー第2800地区 第5ブロック

山形中央ロータリークラブ

新たな試練を機会に、ロータリアンとして創造力と柔軟性で乗り越えよう!

〒990-0031 山形市十日町1-1-26 歌懸稲荷神社社務所ビル2F TEL(023)632-7777 FAX(023)624-5200

例会 毎週火曜日12:30~13:30(但し第5週は18:30~) 会場 ホテルメトロポリタン山形

- | | | |
|-----------------|----------------|--------------------------|
| ■ 会長 小林 敏 郎 | ■ 職業奉仕 佐竹 純 一 | ■ 副 幹 事 佐藤 太 |
| ■ 会長エレクト 長橋 正 人 | ■ 社会奉仕 小泉 俊 哉 | ■ 会 計 深瀬 隆 志 |
| ■ 副 会 長 石山 徳 昭 | ■ 青少年奉仕 三浦 龍 夫 | ■ S A A 川 合 勝 芳 |
| ■ 直前会長 伊藤 和 子 | ■ 国際奉仕 中川 清 美 | 国際ロータリー会長 ホルガー・クナウ(ドイ ツ) |
| ■ クラブ管理運営 長谷川 淳 | ■ 幹 事 玉ノ井 憲 史 | 第2800地区カバナー 齋藤 榮助(米沢中央) |
| | | 第5ブロックガバナー補佐 北門 一忠(上山) |



ロータリーは機会の扉を開く



◆日時/2020.10.6 12:30 ◆例会場/ホテルメトロポリタン山形 ◆ソング/国歌・奉仕の理想

会長挨拶



みなさん、こんにちは。まずは最初に、本日のお客さまをご紹介します。株式会社エム・エス・アイのアナー・ガリドさんです。お仕事で大変お忙し中、お越し頂きまして大変ありがとうございます。卓話を楽しみにしておりますので、どうかよろしくお願ひします。

10月は「米山月間」の月となっております。今年度、当クラブでも米山奨学生のサブ世話クラブをお引き受けしております。ドース、ビンセント君。ベナン出身で、山形大学修士課程2年生であり、寒河江RCが世話クラブを担当されております。ちなみに、ベナンは、西アフリカに位置する共和制国家で、フランスから独立した国だそうです。

地区事務局から、今月の米山月間に合わせて、米山奨学生の自己紹介動画がメールで届きました。本日は、その内容を若干ご紹介したいと思います。ドース、ビンセント君は、米山奨学生となり2年間、ロータリークラブとの交流が自身の人生を前向きに変え、励ましおり、奨学金にも会員一人ひと

りの温かい愛情と心からの喜びを感じていると述べています。また、ロータリアンからの紹介もあり、企業従業員の英語教師のアルバイトを紹介してもらい、楽しく仕事に従事していると嬉しそうに語っておりました。卒業後は、国際的な活動を行っている日本企業に就職し、自国を始め西アフリカの開発により、貧困をなくすように多くの貢献をしたいと述べており、将来はベナンの大統領になることが夢だと語っておりました。私たちの米山奨学生への支援活動が、こうした若い世代の人生を支えているのだと改めて実感したところでした。

地区事務局から届いたメールには、2019-20年度の2800地区における米山奨学会寄付実績一覧が添付されていたのですが、昨年度の個人平均寄付額が10,128円、49クラブ中18位という結果でした。今月から米山奨学会寄付が開始しますが、どうか会員皆様のご理解を頂き、多くの方々にご寄付をお願い申し上げます。

今日もどうかよろしくお願ひします。ご清聴ありがとうございました。



小林敏郎/先日のお月見の会、ご参加ありがとうございました。また、本日はアナーガリドさん卓話ありがとうございます。

金子昌弘/米山奨学生OBとして弊社のガリド社員が卓話をさせていただきありがとうございます。



10月 会員誕生・創立企業日

誕生日 相川博昭

企業創立記念日

高田恭伸 三井住友海上火災保険(株)
鹿間慶彦 (株)モーターヤマガタ

本日出席・修正出席

	会員総数	出席義務出席数	出席会員数	出席率
本日出席	37名	—	27名	—
修正出席				
他クラブでメークアップされた会員				



ゲスト卓話

元米山奨学生卓話

(株)エム・エス・アイ アナー・ガリド氏

自己紹介

株式会社エム・エス・アイのアナーガリドと申します。モンゴルのウランバートル市出身で、今年で23歳です。好きな食べ物はお肉で、家族構成は4人家族です。趣味はギターとドラムでバンドをやっていて、モンゴルの一番大きなライブフェスに3年連続で演奏。現在、山形米山学友会であり、山形ローターアクトの副会長も務めております。

モンゴルについて

モンゴルは中国とロシアの間に位置する内陸国である。人口は約三百万人ですが、地方から首都の人口移動によりウランバートル市には人口の半分が集中している。ゲル地区に囲まれたウランバートル市には人口密度による渋滞、大気汚染などの問題が深刻化している。田舎のほうに行くと草原、ゴビ砂漠などを体験できる。一円が25トゥグルグであり、牛乳を40円で購入できる。

モンゴル人の主食はお肉で言っても過言ではない。石焼羊肉などが有名であり、田舎に行くと必ず食べる料理である。石を手の平で持ちながら食べると体、健康にいいといわれている。また、モンゴルではウォッカを飲むことが多い。冬マイナス30度くらい寒くなるので体を温める目的でも飲酒している。また、馬乳酒という伝統的なお酒があり、子供から大人まで日常的に飲んでいる。栄養が高く、ビタミンCやカルシウムが多く含まれている。

学歴

2006年～2012年までは第47小中公立学校で、2012年に新モンゴル高等学校に入学し、2015年に卒業。2015年9月からモンゴル国立大学ビジネス学部

に入学したが、日本留学試験に合格し、モンゴル国立大学を中退。2016年4月から2020年3月まで山形大学人文学部。2018年9月に短期留学で一年間くらいフィリピンのセブ島にあるサンカルロス大学に留学。

新モンゴル学園

新モンゴル学園が2000年にジャンチブ先生をはじめ、柱一本の会やロータリアンの支援のもとで設立された。設立のきっかけはジャンチブ先生が学生時代に3人娘と奥さんを連れて山形大学に留学し、一人の娘を山形西高校に入学させたことである。ジャンチブ先生が娘の学校を見学するときに西高の教育の仕方、施設などを見て感動し、刺激を受け、モンゴルに帰って西高をモデルにした学校を作りたいという夢を持った。ジャンチブ先生が当時、山形北ロータリークラブの奨学生であった。ロータリアンの方々が「柱一本の会」をつくり、支援してくださったからこそ、ジャンチブ先生の夢が実現された。私は新モンゴル学園の13期生の卒業生で、2020年10月5日に設立から20年を迎えた。

振り返ってみると今の自分もそして新モンゴル学園もロータリーの皆様のおかげ様でここまでやってきた。初めて親元から離れ、海外に飛び立った私だが、最初は右左もわからない、日本語もよく話せなかった。その私にお世話クラブ、カウンセラーという存在が寄り添っていただき、背中を押して、支援してくださったので安心したかつ充実した学生生活を送ることができた。このご縁を大事にし、将来はロータリアンになって助けが必要な人に手を差し伸べる、世界平和や社会奉仕のために活動できる、モンゴルと日本の架け橋になる人材になれるよう、自分の夢に向かって精一杯頑張ってまいります。

